

地域で団結し良いまちを目指す

上菅田地区まちづくり協議会

活動のきっかけ : 自治会長同士で地区の課題に取り組む検討会を設立したこと
 エリア : 保土ヶ谷区上菅田町
 活用した手法等 : 地域まちづくりプラン認定を目指した活動



まち歩きの様子

上菅田を良いまちにしたい!

上菅田町は、相鉄線西谷駅の北側に位置する、菅田川の谷戸を中心とした丘陵地帯にある住宅地です。山坂が多い、道路が狭く歩道が確保できないなど、地区では多くの課題を抱えています。

上菅田地区内にある12の自治会のうちの上菅田自治会の会長は、これらの課題を何とかしたいと思っていたのですが、道路の拡幅などは1つの自治会では対処が難しいため、自治会の枠を超えて問題に取り組む必要があるのではないかと考えました。そこで、同じ連合地区内の他の自治会長に呼びかけて、地区の課題を解決するためのまちづくり組織として「地域整備検討会」を発足しました。これが、上菅田地区のまちづくりを検討する母体となりました。「上菅田を良いまちにしたい!」と日頃から考えていた上菅田自治会の会長の熱い思いが、他の自治会の人たちの心を動かしたのです。

まちの課題を解決するには?

当初、検討会の中では「まちづくりって何だろう?」と活動の進め方のイメージが具体化されていませんでした。そこで、まず横浜市内外を含む様々な自治体のホームページなどから

まちづくりに関する資料を集め、まちの課題を解決するためには何をしたら良いのか調べました。

その後、区役所区政推進課に相談し、「地域整備検討会」を誰もが参加できる「上菅田地区まちづくり協議会」に変え、まちづくりの将来像である地域まちづくりプランの策定を目指す活動が始まりました。

地域のつながりが支え

協議会では、アンケート、ワールドカフェ(住民同士の話し合い)、まち歩きを行うことで、まちの課題を明らかにする活動を進めてきました。活動を進める上で大きな支えとなったのが、地域のつながりの強さでした。ワールドカフェでは、地元の学生や子育てをしている主婦の方など107名もの方が参加しました。また、協議会に参加する自治会長の中には、自治会長の任期終了後も協議会に残って、活動に引き続き協力する人もいます。

「この地域は伝統的に団結力が強い。これは自慢できる。さらに色々な人材が地域にいる。そういう人を巻き込んで、一緒にやっていくことが大切です。」と協議会長。

現在、協議会ではまち歩きなどをおして出てきた「歩行空間の安全確保」「緑と河川の保存」「地

区内の交通アクセスの整備」という課題を地図にまとめ始めています。その地図を基に、地域の意見をしっかり聞いて、共有をしながら地域まちづくりプランの検討を進めています。

まちづくりを始める人へ

「自分たちのまちは自分たちでつくれます。そのためには、みんなの合意を得ながら活動を進めていく重要性を感じます。まちづくりは全員が賛成することばかりではなく、具体的な話になると反対意見が出るなど大変なこともたくさんあります。地域の中で、そこを調整していく役割を我々が持つ重要性も活動を進めていく上で分かりました。」(上菅田地区まちづくり協議会 会長より)



ワールドカフェの様子

ポイント① まちづくりのきっかけ

私のまちにちょっと気になることがあります

この長い坂道バギーを押すのが大変ね

買い物の帰りも大変よ

でもどうしたらいいのかしら

私もそう思っていたよ

インターネットで解決事例を調べてみましょう!

じゃあ私は友人たちに特にどんなことで困っているのか聞いています

じゃあ私は区役所で相談してみます

各々の得意なことを生かして考えることに

活動のポイント

様々な活動を組み合わせて災害に強いまちへ 松ケ丘防災に強い町をつくる会

活動のきっかけ : 東日本大震災を契機に始めた防災への取組
 エリア : 神奈川県松ケ丘
 活用した手法等 : 地域まちづくりプラン、ヨコハマ市民まち普請事業



要援護者安否確認訓練の様子

災害に強いまちを目指して

松ケ丘は、国道1号線などの幅の広い道に囲まれた丘陵地にあります。国道から一步入ると急な坂道や、細い道が多く、災害に対して課題があるまちでした。

平成23年3月東日本大震災が発生、当時就任して間もなかった松ケ丘自治会長は、震災を契機に住み心地の良いまちとは「様々な災害に対して住民に安心と安全を提供できること、それを次代の住民に引き継いでいける体制を整えること。」と考え、防災に関する活動を重点的に始めました。

24年2月に活動の拠点となる自治会館が竣工したことで、防災の取組は更に進みました。それまでは地域ケアプラザや、自治会地区内の教会を利用していましたが、いつでも使える活動の拠点を得たことで、自治会館を起点とした防災に対する様々な取組を行うことが可能になったのです。

きめ細かい対応で理解を得る

自治会館の建設と並行して、防災活動要領をまとめ、制定後すぐに災害時の要援護者の把握を始めました。

しかし、地区にとっては全く新しい取組だったため、活動の内容が

うまく伝わらず、地域の人々の理解を得るために大変な苦労がありました。24年7・8月の全ての土日に、自治会長と防災部長が、自治会の班ごとの意見交換会で直接説明をしました。「周知を徹底的に行った。その熱意たるや凄いものがあり、会長の何とかしなくてはいけないという熱意がみんなを動かし、地域の人々の意識が変わった。それが今も続いている。」と当時を振り返ります。

24年度は65名の要援護者の登録がありました。次に、登録者を救助するために、地域防災拠点を補完する拠点として自治会館を活用することにしました。しかし、自治会館では防災活動だけではなく、子育て支援など、様々な活動に取り組んでいたため、収納力が不足することが予測されました。

成果を次の活動につなぐ

そこで、区役所地域振興課に収納場所を整備する支援がないか相談したところ、「ヨコハマ市民まち普請事業」を紹介され、26年に防災収納庫を整備することができました。一方、活動を進めたことで、防災情報を発信する案内板の必要性など他の課題も見えてきました。

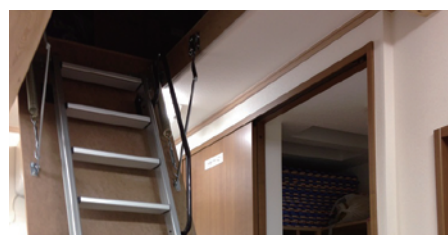
そこで「まち普請事業」を所管する地域まちづくり課に相談し、松ケ丘のまちを防災の観点からもう一

度見直そうと、26年に松ケ丘自治会に「松ケ丘防災に強い町をつくる会」を発足させました。新たに災害に強いまちづくりの計画を検討し、地震や火災への対策だけでなく、交通災害への対応やまち全体のつながりの強化も示した「松ケ丘まちづくりプラン」を策定し、27年11月に地域まちづくりプランの認定を受けました。「検討の最初は戸惑い、試行錯誤を繰り返しましたが、活発な議論の甲斐あって、良い計画が出来ました。」と胸を張ります。

今後は完成したプランの実現に向け、まちの案内板や防災マップの整備など活動を進めていきます。

まちづくりを始める人へ

「まちづくりだなんて、とても大変で自分たちにはできないと思うかもしれませんが、まずはやってみることが大切だと思います。期間を定め目標を持って活動をすることで、アイデアも出てくるし、良い活動もできると思います。」(松ケ丘防災に強い町をつくる会 代表より)



「まち普請事業」で整備した防災収納庫



活用した支援

活動の助成

コーディネーターの派遣

整備助成

その他

活用した手法

プラン

ルール

その他

防災への取組が地域の輪を広げる

住みよいまち・本郷町3丁目地区協議会

活動のきっかけ : 防災上の課題を地域で共有したことで「ガス山」の活用計画が進んだこと
 エリア : 中区本郷町3丁目
 活用した手法等 : まちの不燃化推進事業、地域まちづくりプラン



協議会の様子

防災に課題のある地区として指定

本郷町3丁目はJR山手駅の東部に位置し、起伏の多い地形に住宅地が密集して建ち並び、急坂が多く公園は少ないなど、防災上の課題の多いまちでした。そのふもとはガス施設跡地があり、「ガス山」と呼ばれていました。この土地がどうなるのか、どうにかして地域のために活用できないか。この地区の課題となっていました。

そんな時に、本郷町3丁目が防災上の課題のある地区として旧「いえ・みち まち改善事業」の対象になりました。それをきっかけに、平成17年に防災に関する勉強会を始め、そこからまちづくりの輪が広がって、「住みよいまち・本郷町3丁目地区協議会」を設立し活動を始めました。

町内会を母体にした協議会は、毎月話し合いを重ね、ニュースを定期的に発行するなど、地道な活動を続けました。

一つずつ目標を達成

まちづくりを続ける上で、防災というテーマは地域の全住民にとって切実な問題でした。「ごみの話や緑の話では反対する人はいるが、防災の話では反対する人はいない。」と協議会長。「防災をきっかけに、地

域の輪が広がり、知らない人同士でも挨拶するようになった。」「防災活動はきずなを強くしてくれた。」まちづくりを続けたことで、それまでつながりの薄かった住民が、「防災」というテーマの下、一体となってまちのことを考え始めました。

20年には地区の課題をまとめ、まちの目標を定めた「防災まちづくり計画」が地域まちづくりプランとして認定を受け、その後計画に基づいて、防災マップや「まちづくりガイドブック」を作成しました。特に「まちづくりガイドブック」は、「まちづくりのルールと暮らしのマナー」を示すものとして大きな成果となっています。こうして一つずつ目標を達成することで、着実に本郷町の防災まちづくりを進めていったのです。

ハード・ソフト両面での防災まちづくり

24年には、懸案だったガス施設跡地に「本郷町ガス山公園」が開園しました。公園内には、協議会が市から費用の助成を受けて、防災備蓄庫、災害用マンホールトイレ、掲示板を設置しました。それ以外にも道路の拡幅や階段の整備など、防災まちづくり計画に基づく整備を着実に進めています。

また、ソフト面の防災対策も進

めています。25年からは自主防災マニュアルの整備を始めました。また、26年からは災害時に安全が確保できている人はタオルを家の玄関に掲げる安否確認の訓練など新たな取組も始まりました。

現在も、既存の活動にとらわれず、まちのみんなが興味を持てるような活動を常に考えながら、防災まちづくり計画の実現に向けて、地域で一丸となって取り組んでいます。

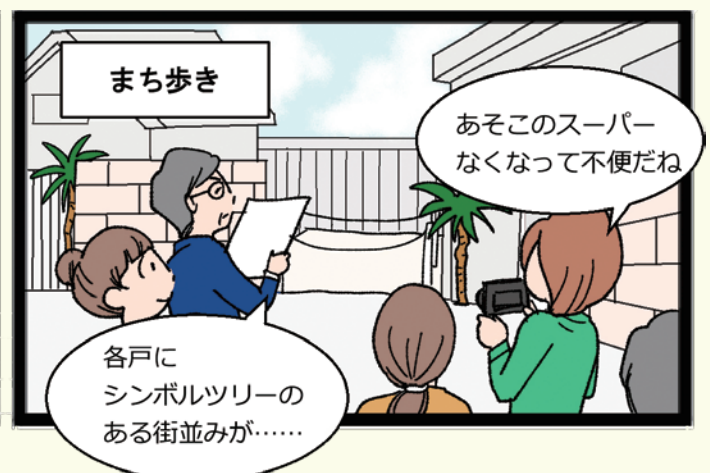
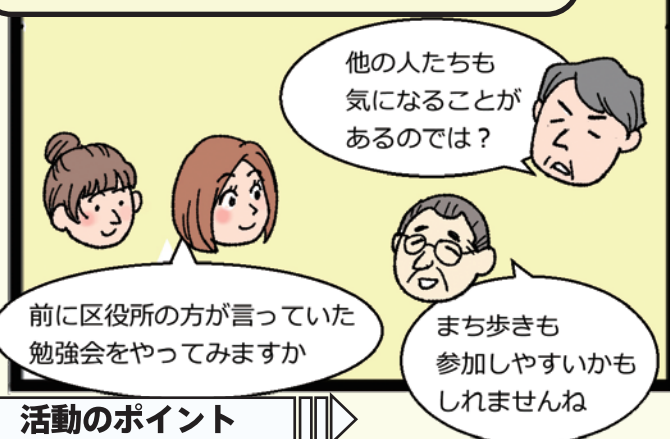
まちづくりを始める人へ

「みんなが興味を持ち、意義のあることでなければ、人は時間を使ってまで活動しようとはしません。興味あるテーマであれば、長続きするし、多くの人が参加してくれて活動の輪が広がります。また、年間の目標を立て、着実に活動することも大事です。」(住みよいまち・本郷町3丁目地区協議会 会長より)



協議会で発行しているニュース
平成27年に100号を発行しました

ポイント② まちの課題を見つけよう



活動のポイント

まちのルールは運営組織があつてこそ

森戸原住宅地区建築協定運営委員会

活動のきっかけ : 建築協定に合わない建築物が建ったこと
 エリア : 港北区日吉本町五・六丁目の一部、高田東二丁目の一部
 活用した手法等 : 建築協定



運営委員会のメンバー

区画整理で生まれた住宅地

森戸原住宅地区は、市営地下鉄グリーンライン日吉本町駅付近に位置し、昭和48年から始まった区画整理事業によってできた閑静な戸建住宅地です。まちの開発と同時に建築協定を締結し、良好な住環境が保たれています。しかし、年月が経過し、建築協定の存在を知らない人も出てきました。また平成20年の市営地下鉄の開通によって、住宅地としての需要が高まり、地区内の二次的な開発が進み、転入した新たな住民が地区内に多くなりました。

なくなった運営組織を再び立ち上げる

この地区では、敷地を分割する場合、面積が180㎡以上とするように建築協定で定められています。しかし、22年に敷地が分割され、協定の基準を満たさない100㎡の区画の住宅が7軒も建築されました。

この時、建築協定認可当初からほぼ一人で運用を担ってきた運営委員長が亡くなったことで、建築協定を運用する運営委員会が事実上の休眠状態であることが明らかになりました。運営委員会がなければ、建築基準法に合致していれば、建築協定に合わない計画であっても地元住民が知らないうちに建築できる状態になります。そこで、市の助言によ

り、建築協定を再び運用できる体制づくりの活動が始まりました。

まず区役所区政推進課と都市整備局地域まちづくり課から運営委員会の活動が停止している状況の説明を受けました。その後、地区の土地・建物所有者から意見集約を行う作業部会を立ち上げ、建築協定の存続の是非を問うアンケートを実施しました。その結果、建築協定の存続に7割以上の方が賛成し、活動を進めることになりました。

23年11月、運営委員会を新たに立ち上げました。運営委員会には、以前からこの地区に住んでいた地主、新たに転入した住民など様々な立場の人が参加し、顔と顔を突き合わせ、遠慮なく意見を交わせる場となりました。

運用基準を定めた効果

当初、建築協定の運用方法がしっかり定められていませんでした。そこで、建築協定を円滑に運用していくため、新たに細かい基準を定めることに着手しました。

有効に建築協定を運用していくためには、どうしたら良いか、激しい議論が交わされました。しかし、みんな同じまちに住み、住環境を良くしたいという意識は同じです。その思いを手掛かりに約4か月かけて建築

協定の運用基準をまとめることができました。さらに建築協定の周知のため、活動費の助成を活用し、地区に看板の設置を行いました。その結果、建築協定に合わない計画が運営委員会に提出されることはなくなりました。

森戸原住宅地区の建築協定は、こうして見事によみがえったのです。

まちづくりを始める人へ

「活動を周知するため、これまでの活動経緯をまとめた『森戸原住宅地区建築協定だより』を全戸に配布しています。さらに少なくとも年1回は運営委員が全戸に足を運び直接運営に対する意見を聞く活動もしています。運営の内容を常にオープンにすることで、会員が運営委員会を信頼し、良好な関係で運営を進めています。そのような顔の見える関係が大事だと思います。」(森戸原住宅地区建築協定運営委員会 委員長より)



助成金を活用して設置した看板



活用した支援

活動の助成

「コ」ラインターの派遣

整備助成

その他

活用した手法

プラン

ルール

その他